

令和4年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立音楽堂	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	32,706	(千円)
	公 演 事 業	24,439 (千円)
	人 材 養 成 事 業	58 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	8,209 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽堂室内オペラ・プロジェクト 第5弾 ファビオ・ビオンディ指揮 エウローパ・ガランテヘンデル『シツラ』全3幕 日本初演 (イタリア語上演/日本語字幕付)	令和4年10月29日 令和4年10月30日	指揮:ファビオ・ビオンディ/管弦楽: エウローパ・ガランテ/出演:ソニア・プリナ 他/演出:彌勒忠史	目標値	1,868
		神奈川県立音楽堂		実績値	1,671
2	音楽堂ヘリテージ・コンサート	①令和4年9月17日 ②令和4年10月1日 ※日程内容を変更 →令和5年3月4日 ③令和5年3月11日	①スティーヴン・イッサーリス ②クロノス・クアルテット来日中止 →テリー・ライリー ライブに変更 ③レ・ヴァン・フランセ	目標値	2,350
		神奈川県立音楽堂		実績値	2,295
3	シリーズ「新しい視点」	①令和4年7月2日 ②令和4年7月10日 ①令和5年2月28日	①公募採択企画 Vol.1 の本公演 ②一柳慧、A. ヴィニャオ作品演奏 ①公募採択企画の Vol.2 ワークイン プログレス	目標値	690
		神奈川県立音楽堂		実績値	495

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和4年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	音楽堂 制作・広報イン ターン	令和4年9月6日～ 11月1日	公立文化施設における室内オペラ公 演の制作・広報について講義と実践 を交えた16日間のプログラム	目標値	3
		神奈川県立音楽堂		実績値	2

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和4年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第55回クリスマス音楽会 ヘンデル作曲オラトリオ 「メサイア」全曲演奏会	令和4年12月11日	指揮：大塚直哉/管弦楽：神奈川フィルハーモニー管弦楽団/合唱：神奈川県合唱連盟/県内高校合唱部 他	目標値	934
		神奈川県立音楽堂		実績値	869
2	子どもと大人の音楽堂	① 令和4年8月6日	① 出演：栗コーダーカルテット他 ② 出演：山川冬樹/滞空時間/梅若紀彰/伊藤悠貴 他	目標値	1,150
		② 令和5年3月4日		実績値	1,567
3	子どものためのアウトリーチ	①令和4年6月8日 ②令和4年6月21日 ③令和4年8月26日 ④令和4年11月15日 ⑤令和4年12月21日	モデル授業講師： ①②④⑤若鍋久美子（打楽器奏者） ③小鹿紡（作曲家）	目標値	360
		①座間市立相模野小学校 ②④茅ヶ崎市浜須賀小学校 ③座間市立東原小学校 ⑤厚木市立第二小学校		実績値	119

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

【公演事業 1】日本初の公立音楽専門ホールとしての歴史と優れた音響を活かし、室内オペラ・プロジェクトに取り組んできた。令和 4 年度は 2 年半前に中止となった日本のクリエイターと世界的古楽団体の協働によるヘンデルのオペラ『シツラ』日本初演に再度挑み、聴衆の期待に応えた。NHK による収録、放送により、より多くの聴衆が視聴することも可能にし、全世界放送、配信の契約にもこぎつけた。

【公演事業 2】世界的音楽家による質の高い室内楽公演をラインアップしたヘリテージ・コンサート①スティーン・イッサーリス③レ・ヴァン・フランセの公演はほぼ満席で好評のうちに実施できた。

一方で 10 月に予定していた②クロノス・クアルテットは、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う予期せぬ社会状況変化の影響を受け来日できず、テリー・ライリー作曲「サン・リングズ」も公演中止となった。3 月に作曲家、テリー・ライリーによるライブを代替公演として実現することができた。

【公演事業 3】シリーズ「新しい視点」①紅葉坂プロジェクト Vol. 1 は、前年度のワークインプロGRESSを経て個性に富んだ表現の実現方法を試行錯誤し、3 団体がホール、2 団体がホワイエや周辺地域で自身のアイデアを発表した。①の紅葉坂プロジェクト Vol. 2 ワークインプロGRESSでは、公募、審査を経て若いモニター観客との活発な意見交換も実現。令和 5 年度の本公演に向け磨きをかけていくヒントを得た。②では一柳慧と、A. ヴィニャオ二人の巨匠によるマリンバ作品をベテランと若手奏者が演奏。来日したヴィニャオは自身の作品にエレクトロニクスとトークで参加、他に類を見ない試みとなった。

【人材養成事業 1】2 名のインターンを迎え、公立文化施設の役割、音楽堂の建物や歴史、事業の組み立て「室内オペラ・プロジェクト」のミッション等、基礎知識を得たうえで制作現場を体験。公立文化施設、劇場の仕事を広く知りたいという希望にあわせ取り組むことができた。

【普及事業 1】コロナ禍による休止を経て、新たな指揮者を迎え「メサイア」全曲演奏会を再開した。舞台上人数制限 60 名にあわせ、管弦楽 20 名、ソリストに加え、約 60 名集まった合唱団員は交代制で 36 名ずつ出演。少人数ながら良質の演奏を実現。新しい世代への継承を目指した、県内高校生による「未来プロジェクト」も 2 年ぶりに再開した。

【普及事業 2】子どもと大人の音楽堂①<子ども編>せかいはともだち！と題し、栗コーダーカルテットによる演奏の他、多文化共生をテーマに、県内のブラジルコミュニティ、横浜中華街等から実演グループが参加。英語、中国語、ポルトガル語の言語サポーターが待機し、読み聞かせや、場内アナウンスの多言語化にも取り組み賑わいをみせた。②<大人編>「音楽堂のピクニック」多彩な出演者による全館を使ったフェスティバルプログラムで、音楽堂を知らない層を取り込み、ホールの新しい魅力発信につなげた。また近隣の公立文化施設との協働アクション「紅葉ヶ丘まいらん」と連動し一部を無料開放し、地域としての魅力発信にも寄与した。

【普及事業 3】「打楽器」と「作曲」の「先生を対象としたワークショップ型」と「子どもたちを対象としたモデル授業とその後の先生によるディスカッション型」の 2 タイプを県内で 5 回実現。これらの様子を収めた「タイプ別記録紹介映像」を作成し神奈川芸術文化財団の「社会連携ポータルサイト」に理解促進目的で掲載する。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

令和元年から有料の主催公演に 24 歳以下半額、高校生以下無料席を設けている。令和 4 年度は多くの対象公演で限定数に達し認知されつつある。普及事業 2①<子ども編>では大人も入場料無料とし、1 日でのべ 1,230 名が来場した。このように若い世代や様々な背景を持つ人々に音楽や文化芸術と出会うきっかけを作ることは、文化的、社会的、経済的意義が認められる。また、シリーズ「新しい視点」のような事業には楽器編成の多様化や、映像、音響の複雑化等、舞台費がかかる傾向のわりに、チケット収入は得にくい、次代につながる新しい表現を模索する取り組みの中で表現者と、観客、相互に気づきも多く、発展的な意義が認められる。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】目標「特別な芸術体験の生成」「音楽堂ブランドの形成と発信」「都市ストックの形成・クリエイティブな地域社会の形成」を探求する。

- ① 音楽堂室内オペラ・プロジェクト満足度：アンケートの肯定的回答 65%以上 [実績 91.3%] (達成)
- ② 音楽堂ヘリテージ・コンサートセット券購入率：各公演購入者の 5%以上 [実績 9.0%] (達成)
- ③ 公演事業全体の満足度：アンケートの肯定的回答 70%以上 [実績 89.1%] (達成)
- ④ シリーズ「新しい視点」①紅葉坂プロジェクト Vol.2 企画応募実績：5 団体以上 [応募実績 15 団体] (達成)
- ⑤ ワークインプログレスモニター観客の企画への期待度：肯定的回答 50%以上 [実績 68.9%] (達成)
有料販売率：公演事業全体の有料販売枚数が有効座席数(設定座席数)の 60%以上 [実績 67.2%] (達成)
- ⑥ 「24 歳以下/高校生以下」の利用者率：公演事業全体の総販売実績枚数に対し 5%以上を維持する。
[実績 4.8%] (未達成)

中止公演があったものの、実施公演は概ね目標を達成し、公演事業全体として成功し、コロナ禍で停滞していたミッションの達成に向け歩を進めることができた。

【人材養成事業】目標「公立文化施設における制作広報の仕事への興味・理解」「室内オペラへの興味・理解」「神奈川県立音楽堂への親近感・エンゲージメント」を高めてもらう。

- ① インターン参加者の目標到達度：プログラム終了後に 5 段階の達成度 3 以上 [実績：6 件中 6 件] (達成)
- ② プログラムの満足度：インターン参加者にアンケート、5 段階で 3 以上が 2 件以上 [実績：2 件] (達成)
- ③ 「公立文化施設の制作・広報の仕事の理解と興味が深まったか」「室内オペラについての理解と興味が深まったか」「神奈川県立音楽堂への親近感がわいたか」5 段階で 3 以上が 1 件以上 [実績：2 件] (達成)
- ④ 告知件数：インターン公募案内の掲示、配布協力件数 20 か所以上を達成する。[実績：30 ヶ所] (達成)
- ⑤ 広報活動の達成度：音楽堂公式アカウントからインターンに SNS 発信等を行ってもらい、プログラム全体のリーチ数平均が 600 件以上 [実績：平均 1,121 件 (発信数 11 件：リーチ数合計 12,340 件)] (達成)
- ⑥ インターン事業への一般の普及度：インターン応募者数が定員の 2 倍 (6 名) 以上 [実績：4 名] (未達成)
①～⑤の達成によりミッションの達成に近づくことができたと言える一方、⑥の未達成もあり受入人数も目標を下回った。次年度からはより多くの対象に積極的に働きかけを行う。

【普及啓発事業】目標参加型の体験事業を中心に幅広い年齢層、客層が音楽・芸術体験を共有し、音楽堂にエンゲージされていくことをめざす。アウトリーチ事業では、県の芸術文化のハブとして教育現場によりそうプログラムの開発：従来のアウトリーチを発展させ、全県の教育者対象に展開していく。

- ① 参加者の満足度：アンケートで「音楽体験が楽しかった」等肯定的回答 9 割以上を [実績 93.1%] (達成)
- ② 参加者の興味関心：アンケートで「音楽への興味関心が高まった」回答が 8 割以上 [実績 94.3%] (達成)
- ③ 音楽堂への関心：アンケートで「音楽堂への関心が高まった」とする回答 7 割以上 [実績 92.6%] (達成)
- ④ 参加者の多様性への意識喚起：アンケートの結果、外国籍の子どもたち、障がい者、高齢者やジェンダーの異なる「他者の存在を意識し、ともに楽しむことができた」とする回答が 10%以上 [実績 83.6%] (達成)
- ⑤ 地域セクターとの連携度：地域セクターとの協力・提携件数を年度に 7 件以上 [平均実績：9 件] (達成)
- ⑥ 教育現場からの評価：先生方からの肯定的評価が 5 割以上 [実績 100%] (達成)

目標の達成により、音楽や音楽堂への興味関心を高め、より多くの年代、観客層がエンゲージされるきっかけを作ることができたといえる。これらのことを今後も継続していくことが重要である。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【公演事業】

公演事業の事業期間は中止となった下記を除いて概ね適切で計画通り進めることができた。

公演事業2：音楽堂ヘリテージ・コンサート

②クロノス・クアルテット テリー・ライリー「サン・リングズ」日本初演 令和4年10月1日（土）

※公演中止

新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う予期せぬ社会状況変化の影響を受け、クロノス・クアルテットが来日できず、公演中止の判断をせざるを得なかった。結果として中止にはなったが、同団体の別演目公演を予定していた全国4館と共同で広報活動（オンライン記者会見、共同広告出稿など）を行なった。また中止後も足並みを揃え、本助成事業への相談、招聘元との交渉等を行った。

神奈川県立音楽堂では、本公演で予定していた「サン・リングズ」の作曲者、テリー・ライリー氏によるライブを代替公演として実施し、短い期間での計画、実施ではあったが、適切に進めることができた。

テリー・ライリー スペシャルライブ 令和5年3月4日（土）

【人材養成事業】

インターンの採用者数が目標より1名少なかったが、実施、終了までの期間は概ね適切で計画通り進めることができ、より充実した内容の実践を行うことができた。

【普及啓発事業】

事業期間については下記をのぞき、概ね適切に計画通り進めることができた。

普及啓発事業1：第55回クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲のうち、高校生のみの音楽堂「メサイア」未来プロジェクト 練習については、コロナ禍前は夏休みから5回実施していたが、令和4年度は台風の影響や高校間のスケジュールの都合で9月以降2回の実施にとどまった。代わりに、音楽堂における大人との合同練習回数を増やした結果、世代を超えた交流から生まれた連帯感、技術の向上も見られ、効率よく実施できた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業全般において新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった事業を除き概ね計画通りに進み事業費についても適切であった。

※要望額から大きな変更が生じた事業

公演事業2：音楽堂ヘリテージ・コンサート

① クロノス・クアルテット テリー・ライリー「サン・リングズ」日本初演：公演中止に伴い、主に出演費等の減があった。当初予定の範囲内で実施可能な代替公演を行い、予算に余剰が生じた。

公演事業3：シリーズ「新しい視点」

① ①紅葉坂プロジェクト Vol.1 の出演費の増が生じた。シリーズ全体の広報に力を入れたため、広報費の増が生じた。次回以降の計画および予算配分の見直しを行なう。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

全国で最も古い公立の音楽ホールとして、歴史的建造物としての価値と、神奈川県民が高度な音楽芸術に触れる中核拠点として長年機能している。神奈川県立音楽堂のブランドイメージを保ち、高めるべく音楽事業の上質性、本物志向を担保することに留意した。

また同時に、平成6年に設立され、オペラ、バレエ、コンテンポラリー・ダンス、現代音楽、現代美術等の幅広い芸術ジャンルにわたり第一線のアーティスト、作品の鑑賞機会を県民に提供し、若手を含む多様なアーティストへの新作委嘱や複合的な芸術ジャンルのコラボレーションを含む前衛的プロジェクトへの取り組みも継続してきた公益財団法人神奈川芸術文化財団の企画・制作力、幅広いネットワークを活用している。

公演事業、普及啓発事業いずれも、アーティストの創造性、独創性を存分に生かした芸術的取り組みへの挑戦を続けている。

令和4年度、創造性が認められた主な取り組みは以下の通り。

ここ2年ほどの間に新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた事業のうち、特に

【公演事業1】音楽堂室内オペラ・プロジェクト ファビオ・ビオンディ指揮 エウローパ・ガランテ『シッラ』全3幕 日本初演 は、国際プロジェクトとして、世界トップクラスの演奏家と、演出の彌勒忠史をはじめとする日本のクリエイターにより2年半越しに結実した。知られざるオペラ作品の新制作日本初演で、美術、衣裳、演出に歌舞伎などに通じる、日本の美意識を活かした独創的なプロダクションは、神奈川県立音楽堂の音楽ホールとしての空間にあわせて創造されたものである。簡素な装置と照明、映像とビオンディ指揮エウローパ・ガランテと歌手たちによる音楽が生み出す創造性に富んだ舞台は上演後 SNS 等で物議を醸すほどで、音楽専門誌のみならず、日本照明家協会会報誌等にも取り上げられた。NHKBS や FM での放送に加え、ドイツのユニテル社との世界放送・発信、映像ソフト化の契約により、今後より多くの聴衆に届く可能性が拓けている。神奈川県という枠を超え、広く日本の舞台芸術振興に寄与し、世界に向けて発信する、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められる。

また、本プロジェクトの関連企画のプレレクチャーは、隣接する横浜能楽堂の能舞台で実施、日本の伝統芸能にインスパイアされた演出意図を演出家彌勒忠史が紹介するもの。日本舞踊家をゲスト迎えた斬新な試みであった。

【公演事業3】①紅葉坂プロジェクト Vol. 1、Vol. 2（ワークインプログレス）

時代を切り開くような新しい表現、ジャンルを問わずレパートリーをとらえなおす新たな視点や、広報も含めたセルフプロデュースの新しい手法などの5企画を、公募審査を経て令和3年度に採択した。Vol. 1 では2月のワークインプログレスを経て、令和4年度7月の本公演に向け音楽堂と協働して企画を創造、発信した。Vol. 2 は2企画が採択され、2月のワークインプログレスではその創作過程を紹介、企画委員やモニター観客とのディスカッションを行った。令和5年度7月の本公演に向け作品のブラッシュアップや広報活動を音楽堂スタッフと協働し創造を続けていく。この公募、採択、ワークインプログレス、公演の過程を繰り返すことは、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する可能性を持った事業として期待できる。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

聴衆や地域住民が自ら参加できるプログラムの実施や地元のアーティストを起用するとともに、近隣の公立文化施設との連携により地域の文化芸術振興の発展、向上を継続していくことに繋がっている。

令和4年度の主な取り組みは以下の通り。

【公演事業3】シリーズ「新しい視点」①紅葉坂プロジェクト Vol.1（本公演）ではホールでの個性的な3企画の発表とともに、プラスアルファ企画として採択された2企画を含むホワイエでの展示も行った。事前に募集し、稽古を重ねた「パフォーマー」の1団が、音楽堂最寄りの桜木町駅前広場まで、大小様々な拡声器から発する音でテリー・ライリー「in C」を演奏しながら練り歩くパフォーマンスを行い、行きかう人々をも巻き込んで、芸術による地域の賑わいの創出につながった。

【普及啓発事業1】第55回クリスマス音楽会 ヘンデル「メサイア」全曲は、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による演奏で、神奈川県合唱連盟所属の大人（公募）と神奈川県内の高校合唱部3校合同による「未来プロジェクト」もコロナ禍による2年の休止を経て再開した。2年の空白があったため、高校生の参加者（主に1、2年生）にとっては、はじめて歌う「メサイア」、その上1パート10名を切る少人数の合唱であったが、大人の合唱団と合同の練習で互いに刺激しあい、素晴らしいハーモニーを創り上げた。約20年ぶりの指揮者交代も重なった「新生メサイア」は次世代への継承を印象付けた。

【普及事業2】子どもと大人の音楽堂

- ① <子ども編> 多文化共生をテーマに「せかいはともだち！」と題した本企画、令和4年度は、特に県内の在住率が高い中国、ブラジル系をはじめとした在住外国人の文化にフォーカスし、ホワイエでは県内のブラジルコミュニティの方々によるサンバ、横浜中華街の獅子舞をはじめ、県の重要無形に指定されている箱根の獅子舞、横浜市内のグループによるインドネシアのガムランによるパフォーマンスを行った。隣接する横浜能楽堂の協力を得て能の仕舞いや日本の太鼓のワークショップ、県立図書館と横浜市民図書館の協力で設置された世界の様々な国の絵本を自由に読めるコーナー、横浜市民ギャラリーの協力による工作コーナーもにぎわった。多文化共生ラウンジの紹介で朝から夕方まで英語、中国語、ポルトガル語の言語サポーターが待機し、必要な際の通訳、場内アナウンスの多言語化にも取り組むとともに、英語と中国語の読みきかせも実施した。集客にあたり小学校等への告知に4か国語の手紙を同封、近隣住民を中心に外国人家族連れを含む多くの来場者を迎え、文化芸術を通じた多様化する住民祖語の交流と理解につながる催しとして始動した。
- ② <大人編> 「音楽堂のピクニック」多彩な出演者による全館を使ったフェスティバル的プログラムで、音楽堂に普段来場しない層を取り込み、音楽堂の新しい魅力を創造、発信した。隣接する横浜能楽堂との共同による能楽師と音楽堂側出演団体とのコラボレーションや、地域の公立文化施設との協働アクション「紅葉ヶ丘まいらんと」連動したスタンプラリーなども同時開催。各施設を回遊する方々を対象に、一部無料開放エリアを設け、地域全体としての魅力発信にも寄与した。

【普及事業3】「打楽器」と「作曲」の「先生を対象としたワークショップ型」と「子どもたちを対象としたモデル授業とその後の先生によるディスカッション型」の2タイプを5回実現。これらの様子を収めた「タイプ別紹介映像」を作成し神奈川芸術文化財団の「社会連携ポータルサイト」に理解促進目的で掲載した。今後もコンテンツを蓄積、充実させ、必要としている先生方に公開していくことで、教育現場に地域の公立文化施設ならではの貢献を行っていく。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

音楽堂機能を強化するため、以下の取り組みを総合的に行い、組織活動を持続的に発展させている。

(1) 関係者ネットワークの強化

- ・関係団体（県公立文化施設協議会、劇場・音楽堂等連絡協議会、公共劇場舞台技術者連絡会等）に積極的に関わり、研修に参加、運営ノウハウの共有や相互の人材交流などを積極的に行っている。
- ・地域の公立文化施設の共同アクション「紅葉ヶ丘まいらん」他の活動を通じ、近隣の基礎自治体、自治会連合会、街づくり会等の地域セクターとの連携を深めている。
- ・インターンシップの実施や、公演の関連企画等を通して教育機関との連携を図っている。

(4) 人材育成

- ・組織力強化のため、キャリアアップを見据えた人事配置を行い、事業運営・施設運営・経営に強い人材育成を促進している。また外部からの研修生を積極的に受け入れ、業界全体の底上げに付与するだけでなくネットワークの強化にも努めている。

(2) 財源の多様化

- ・手厚いホスピタリティを実現し、長年継続して利用していただくことで、利用料金収入の安定化を図り、効果的な劇場運営に努めている。
- ・寄付金集めの専従担当者を置き、県内の企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。

事業の実施

(3) 評価と改善

- ・設置者が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、専門委員による視察と評価会議を開催し、課題抽出と業務改善を行っている。
- ・外部委員と財団職員による検討会を設置して、施設運営についての理念やミッション等をまとめたビジョンを新たに作成し、職員の行動指針として共有していくこととしている。

- (5) 社会連携ポータル「文化施設があらゆる人々へ開かれた場となること」、「文化芸術を通じた地域との連携の強化」の実現に向けて、ノウハウを集約し強化していきます。社会と芸術をつなげる窓口＝ポータルの機能を果たし、文化施設と社会との新しい関係を構築していく。